

クロントイで火災発生、財団の消防隊が消火と避難に貢献

天台宗も緊急救援

1月27日午後8時すぎ、クロントイスラムの一角で火の手があがり、約50軒の家屋が全焼する火災がありました。発生直後、現場から約2キロ離れたドゥアン・プラティープ財団の消防・救急隊がいち早く駆けつけ、消火にあたりると同時に逃げ惑う住民たちを安全な場所に誘導しました。住民たちが就寝前であったため、逃げ遅れる人もなく、けが人も出さずに約1時間半後に消し止めました。翌日には折から来タイ中の天台宗の僧侶一行も現場を訪れ、プラティープ・ウンソンタム・秦さんたちと一緒に救援物資と見舞金を届けました。

火事が起きたのはクロントイ地区東部リムクロン地区で、運河を挟んでクロントイ港の石油タンク基地があります。財団の消防車が真っ先に現場に駆けつけ、燃え上がる家屋から約60メートル離れた消火栓から水を引き消火活動を開始。その後、都消防庁から50台ほどの消防車が次々に到着しましたが、周辺に水源が見当たらなかったため、延焼家屋が広がりました。

ドゥアン・プラティープ財団の消防・救急隊は日本のボランティア団体からの支援で約30年前に設置され、消防車と救急車が各1台、スラムの狭い路地を走り回れる照明灯付きのオートバイも一台あり、今回の火災では隊員約50名がフル出動しました。発生後すぐ停電が起き、真っ暗闇になりましたが、住民たちは照明灯を頼りに隊員の指示に従い、避難しました。

一夜明けた28日には、来タイ中であった天台宗一隅を照らす運動本部の元本部長・獅子王圓泰・比叡山延命院住職一行が被災地を訪れ、プラティープ・ウンソンタム・秦さんと共に緊急救援物資のおコメと見舞金を被災した人々に手渡ししました。

火災は空き家から発生したと見られており、消防局と警察が原因を調べています。



